

日本観光ホスピタリティ教育学会 全国大会発表要旨執筆要領

『発表要旨集』に掲載される「研究報告」ならびに「教育実践報告」の原稿は、以下の執筆要領に基づいて投稿すること。なお、この執筆要領は、投稿原稿の作成に関わるすべてを網羅しているものではない。各項目が規定していない部分は、投稿者が基本的な原稿作成作法に準拠し、作成いただきたい。

1. 原稿の用紙設定は A4 判とし、ワードプロセッサソフトウェアにて作成すること。提出された原稿は、そのまま写真製版することを原則とするのでレイアウトには十分注意すると共に、印字は鮮明であること。また、図、表、写真などは鮮明で判読できるものを本文中に挿入すること。ただし、日本観光ホスピタリティ教育学会編集委員会で様式統一のために編集を行うことがある。
2. 発表要旨の原稿の基本的なレイアウトは以下の通りである。学会公式ホームページ上で配布されている「日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会 発表要旨テンプレート (様式 4)」を使用して発表要旨の原稿を作成すること。
  - (ア) 全体のページ数は 2 ページとし、2 段組 24 字 (字送り 9.5pt) × 45 行 (行送り 15.55pt) で作成する。ただし、タイトル・氏名・キーワードの記載箇所 (1 ページ左上) は 1 段組とする。なお、余白は、上下 25mm、左右 20mm とする。
  - (イ) 日本語タイトルのフォントは、全て MS ゴシック、14 ポイントで太字にし、副題がある場合は 11 ポイントとする。また、必ず英文タイトルを付け Book Antiqua 12 ポイントとする。英文の副題がある場合は Book Antiqua 10 ポイントとする。
  - (ウ) 日本語著者名は MS ゴシック 10 ポイントとする。姓名の間を全角 1 文字空ける。連名の場合は「、」で区切る。欧文表記による著者名は Book Antiqua 10 ポイントとする。名・姓の順で記載する。連名の場合、最後の人の前は「and」、それ以外は「、」でつなぐ。日本語の著者名の右には上付き文字で「\*」を付け、ページ下のフッターのところに所属を明記する (学部名以下は省略。職名は記載しない)。連名の場合も同様であるが、所属が異なる場合には「\*\*」「\*\*\*」を振り、フッターにそれぞれの所属を対応して記入する。所属の表記は 1 ページ下端部のフッターに 2 行分を使用し、1 行は境界線、1 行に MS 明朝 10 ポイントで所属表記をする。なお、連名の場合は 1 行に収めることを優先し、ポイント数を落としても構わない。
  - (エ) 日本語キーワードは、「キーワード:」とし、3~4 語ほどを MS ゴシック 10 ポイントで 1 行に記すこと。英語キーワードは、「Keywords:」とし、日本語キーワードに対応するものを Book Antiqua 10 ポイントで 1 行に記すこと。
  - (オ) 各表記の行間は以下の通りとする。
    - ① 表題と英文表題の行間は 1 行あける。
    - ② 英文表題と日本語著者名の行間は、1 行あけ、日本語著者名とローマ字著者名の行間はあけない。
    - ③ ローマ字氏名と日本語キーワードの間は 1 行あける。日本語キーワードと英語キーワード

の行間はあけない。

④ キーワードと本文の間は2行あける。最初の1行は境界線とする。

⑤ 本文中では、章間を1行あける。

⑥ 本文末と謝辞、謝辞と【補注】、【補注】と【参考文献】の間はそれぞれ1行あけること。

(カ) 本文の章・節・項の見出しのフォントはMSゴシック10ポイントを使用する。本文の日本語はMS明朝体、英語・数字はCenturyの10ポイントとする。図表のタイトルのフォントはMSゴシック10ポイントを使用し、図のタイトルは当該図の下、表のタイトルは当該表の上に配置するとともに、図・表それぞれに通し番号を打つ。

(キ) 本文の記載にあたっては以下の指示にも従うこと。

① 英数字は半角を使用する。

② 常用漢字・現代仮名づかいを使用する。

③ 文体は「・・・である」調とする。

④ 見出しの表記は次のように行う。

章 1.

節 (1)

項 1)

⑤ 事項列挙をする場合は、丸数字(①・②・③)を使用する。

⑥ 参照文献の本文、注等における挙示は、著者名(発行年: ページ数)、または、(著者名発行年: ページ数)とする。

(ク) 科研費、本学会グループ研究助成等の研究助成を受けた研究発表の場合、本文の直後に記載する。「謝辞:」まではMSゴシック9ポイント、以下はMS明朝(英数字はCentury)9ポイントを使用する。

(ケ) 注は、本文中の該当箇所の右肩に上付き文字で順に半角数字・記号で1)から番号を打ち、本文(謝辞)の後に【補注】と表記してまとめて記載する。【補注】の見出しはMSゴシックを使用する。補注の記載は9ポイントとする。ワープロソフトの脚注機能の使用は禁止する。

(コ) 他者が著作権を保有する図表、写真、文章等を転載する場合は、発表者が投稿原稿提出日までに原著者との間の著作権処理を行う。

(サ) 参考文献は、【参考文献】のように表記し、次行から9ポイントで印字する。

(シ) 参考文献は、著者名、発行年、題名、出版社の順に記述すること。欧文の書名やジャーナル名はイタリック体にすること。各文献の表記の2行目以下は全角2文字のぶら下げをすること。

(例)

Urry, J. 1990 *The Tourist Gaze: Leisure and Travel in Contemporary Societies*, London: Sage. (=1995 加太宏邦訳『観光のまなざし—現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版局.)

前田勇 1995『観光とサービスの心理学—観光行動学序説』学文社.

前田勇 1996「日本・韓国間の国際観光交流の推移と展望」, 前田勇『現代観光学の展開—観光行動・文化観光・国際観光交流』, 169-182.

Urry, J. 1992 *The Tourist Gaze and the Environment, Theory, Culture and Society*, 9: 1-26.

前田勇 1990「観光関係人材育成の現状と課題」『月刊 観光』290: 3-14.

エイバーロード・リサーチ・センター：海外旅行調査 2015：2014 年海外旅行者の選択プロセス・評価と今後の意向， <[http://www.ab-road.net/research\\_center/release/misc/pdf/20150707\\_01.pdf](http://www.ab-road.net/research_center/release/misc/pdf/20150707_01.pdf)> (2015 年 9 月 2 日閲覧).

3. この執筆要領とあわせて「日本観光ホスピタリティ教育学会募集要項（全国大会様式 1）」「日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会 発表要旨テンプレート（様式 4）」を参照のうえ、作成すること。

以上

制定：2019 年 11 月 16 日

改定：2020 年 11 月 3 日